

2. 小畦立て播種栽培技術マニュアルのねらい

(1) 技術開発・普及の経過

岩手県農業研究センターでは、水田における畑作物の栽培で問題となっている湿害を軽減・回避するための独自の技術として、平成 17 年度から小畦立て播種栽培技術の開発をスタートしました。

大豆については、平成 19 年度に播種機の基本仕様が完成し、その後もオプション技術や関連技術（深層施肥、雑草管理等）の開発を進めており、平成 23 年産の県内における普及面積は、水田における大豆の作付面積の約 3 割となっています。

また、麦類については、平成 22 年度に密条用小畦立て播種栽培技術として、麦類の播種様式に合わせて条間や畦の形状等を改変した新たな技術を完成させ、現在、大豆に引き続き、生産現場における本格的な技術の普及を図っています。

さらに、そば・なたねについても、大豆や麦類で開発された技術を応用した取組みが、各地で緒に就いたところです。



岩手県農業研究センターにおける
小畦立て播種の実演の様子

(2) マニュアルの活用方法

小畦立て播種栽培技術は、農業者が開発・改良の段階から直接参加し、生産現場での対話や課題のフィードバックを重視して開発したものであり、既存の機械や部品等を使って、自分で播種機を組み立てることを基本としています。

一方、その組み立て方法は、大豆の播種機の基本仕様では比較的簡易ですが、オプション技術、麦類の密条用小畦立て播種栽培技術、そば・なたねへの応用等と技術が展開する中で、組み立てに要する部品・工程数が多くなり、農業機械販売店・JAの農業機械センター・農業者（生産組織のオペレータ等）等の組み立てスキルの向上が必要となっています。

このマニュアルは、畑作物の生産性向上に向け、低コストで単収・品質向上が期待できる小畦立て播種栽培技術の一層の普及を図るため、生産現場での播種機の組み立ての参考として活用していただけるよう、具体的な組み立て方法について、作物ごとに写真等を用いながら解説しています。

実際に技術を導入する際は、このマニュアルを参考に、最寄りの農業改良普及センターへお問い合わせのうえ、できるだけ播種期が近づく前に、機械の組み立て・調整や、ほ場での試験走行等を実施し、小畦立て播種がうまくできるように事前の準備を行うようにしましょう。

本マニュアルは、岩手県農業研究センターの試験研究成果等をもとに作成したもので、同センターのホームページには、組み立て作業のポイントや留意点等をわかりやすく解説した動画マニュアルも掲載しておりますので参考にしてください。

岩手県農業研究センターホームページのURL
<http://www.pref.iwate.jp/~hp2088/>